

東奥日報

2019年(令和元年)5月10日(金曜日) (12)

八戸工大生2人デザイン

「下北ジオ」バス出発

自然や動物カラフルに

むつ

下北ジオパークをPRするラッピングバスが7日、むつ市でお披露目された。ラッピングバスは八戸工業大学の学生2人がデザインし、同日から下北交通(同市)が運行を始めた。

デザインを考案したのは同大3年の高野亜子さん(20)と高橋祐賢さん(20)。2人は昨年9月、フィールドワークで下北を巡り、約5カ月かけて完成させた。

高野さんは下北交通のバスに用いられている赤と白のラインを水平線に見立ててジオサイトと共に暮らす人の魅力表現し「ジオサイトが暮らしと文化に深い

つながりがあると感じた。下北交通のバスとして生活



【写真上】高野さんとデザインを考案したラッピングバス
【同下】高橋さんとラッピングバス



に寄り添えるようなデザインになった」と満足げ。

高橋さんはオレンジを基調に、仏ヶ浦や釜臥山、寒立馬、水産物などジオサイトの自然や動物をカラフルに描いた。高橋さんは「下北のエネルギーに負けない

色を考えた。自分のデザインが何十倍にも大きくなっ

てびっくり」と話した。ラッピングバスは17年にむつ市の苦生小学校の児童が下北ジオパーク推進協議会に提案し、採用された。(山本光)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」